

# Movement

# Off

# Jack

# Overlord

# WEST Chronicle

<http://www.m21.or.jp/clubfame/mojoproject/>

変わらな  
われな  
しは



'03 3.10

'03 3.10~ THE ROLLING STONES "LICKS" JAPAN TOUR 2003

北朝鮮が日本海でのミサイル再試射

*prologue*

昨年暮れに、京都信金で立て籠もり事件があった。四條烏丸周辺は物々しい様子で、全国的にも大きく取り扱われたニュースであり、日々ハイスピードでニュースがスクロールしていく現代でも記憶に新しい方も多いだろう。

テレビの報道を見、新聞の報道を読めば、あの事件はただの犯罪である。借金に追われたか、金に困ったか、ATMごと重機で掻っ払うなど、同様の事件を挙げればキリがない。

だがそれは社会情勢・経済情勢、とりわけ銀行のあり方…、いわゆる「時世」というものを端的に現したメッセージではあるまいか？ 日本国の法に則って生活する以上、犯人を擁護するつもりはないし、彼が意識したかどうかも定かではないが、結果的に彼の行動はメッセージだったと思うのだ。

「メッセージ」という言葉。この言葉が使われ難い世の中になって久しい。特に音楽業界においては「メッセージ・ソング」が姿を消した。どうも誰かに何かを汗をかきながら伝えるのは格好悪いらしい。報道の中にもアートの中にも、一生懸命メッセージを伝える事がなくなったから、我々は様々な事件、事象の中からこのメッセージをくみ取らなければならなくなった。

【隔週土曜日、定期的にロック及びロック的事象を中心に自由で創造的な空間を創り出して行く事によって、これらの真に解放された世界を日常化しようとするMOVEMENTです。

シンプルに「好きな事は好きであり」「良いものは良い」という事を率直に認め合える価値観を持った社会を求めているのです。その為にはたとえ小さくとも人間のアイデンティティーを根底から問い直す事に真の共感を覚える人達によって、それら表現する「場」を大切にしたいと思えます。

生きている限り何かに感動し、何かを求めていかねばならない人達が集って、求めているものを捜したいのだ、まだまだ、涙や、笑や怒りを失ってしまったはずはない、それらを表現し、共感する場がないだけです。今や若者は社会に対してクールに傍観者として存在することや自己中心的に存在することは許されないのです。自分たちの態度と姿勢を明確に示さねばなりません。】

1970年代、「MOJO WEST」というムーブメントがあった。上記はその機関誌巻頭の全文である。ムーブメントと表記されているが、今で言うイベントである。ちなみに日比谷野外音楽堂をロックフェスの会場として解放したのも、円山音楽堂、京大西部講堂をロックの会場としていったのも、このMOJO WESTの呼びかけだった。京都にアンノン族やヒッピーが押し寄せてきた時期は、ロック喫茶が溜まり場で、ここからファッションが生まれていった。Half (ハーフ) という京都のジーンズメーカーのベルボトムジーンズが飛ぶように売れた。「縄文」「MAP」「ポパイ」「ゲリラ」「ホンキートンク」「飢餓」「捨得」「ほんやら洞」「ママリンゴ」「治外法権」「バレット」「DAM HOUSE」「ジュジュ」「STUDY ROOM」「貴」「JAM HOUSE」…。ミュージック・シーン、いや、ライフ・シーンとも呼ぶ

べきものを支えたハコは数え切れない。

不思議なのは、この機関誌には「クールに傍観者として」当時の若者が捉えられていることだ。30年前の20代と、現在の20代を直接比較することは不可能だが、70年代と言えば、学生が非常に高い体温を持った時代である。その世代をして「クール」と表するならば、現代の20代は何と表現すれば良いのか。それとも、今で言う「イベント」を興そうとする若者は、いつの世も同じ温度を持っているのだろうか。

政治でわたし、変わらない。

これが現代の、特に若年層の実際であり本音だ。では何で変わることができるのか。メッセージ不在の世の中では、誰もが「変わる必要はない」のかもしれない。だが京大西部講堂、富士オデッセイ、フォーク、ブルース、ギター、ジーンズ、ドラッグ、ロック喫茶、ライブハウス…。語りた事が、伝えておきたい事が、山のようにある。その世代をリアルタイムに生きた人々はこれらで変わった。それぞれのファクターの一つひとつが彼らのライフスタイルを作ったことは紛れもない事実なのだ。

不世出のブルースシンガー、マディー・ウォーターズらが歌っている「I GOT MY MOJO WORKING」というスタンダードナンバーに出てくるスラング。特に黒人たちの間で流行したこの言葉は、「TOGETHER」に意味は近いが、「現実社会にしながら崇高なマインドの世界へ共に行こう」というニュアンスが含まれる。その言葉は「MOJO」。4月末、京都は北山通植物園前のビルの地下に、同じ言葉を戴いたエンターテインメント・ホール「MOJO WEST」が立ち上がる。同時に東京は代官山に「MOJO EAST」のシーンがタイム・シェアされる。

年寄りの音話と思われるならそれもよし。説教を打つ気もない。当時のカルチャーやシーンを追うことで、眠れる世代と眠れる知識欲と、行動欲を問うて行きたい。「変わっても良い」という何かが見つかる事を期待して、このコーナーを始めた。

今回のモチーフには「京大西部講堂」を取り上げる。

#### MOJO WEST opening live

- 4月25日 (金)  
テイブ平尾 with 和田泰三とそのバンド
- 4月26日 (土)  
上久保純 with 元レイニーウッドとその仲間たち
- 4月27日 (日)  
大野真澄 with 田中 章 (G. & Cho.)
- 4月28日 (月)  
深水龍作と仲間たち(B./入江 寛 Key/森麻由子 Vo./山本明子)
- 4月29日 (火)  
ミッキー・カーチス

#### Entertainment Hall MOJO WEST '03 May Weekday Artist ↓

OUTSIDE SIGNAL  
(glAre gAte records)

